

# 効果ありますシートベルト



## 助かるのはあなた 締めるのもあなた

### 増えています

## シートベルト着用者

道路交通法が改正され、早ければ秋頃には、シートベルトの着用が義務付けになる見込と言われています。

長門市では、昨年十二月の市議会で、「全市民とともにシートベルトの着用定着化を強く願ひ、シートベルトの着用推進に努める」ことが決議されました。

あれから四か月、シートベルトの着用は、どんな状況でしょうか。また、シートベルトは本当に有効なのでしょうか。今回はシートベルトについて、いろいろと考えてみました。

「シートベルト、シートベルト」 「車に乗ったらシートベルト」 毎朝八時前後、出勤途中の車で混雑する農協交差点で、赤色の携帯マイクを握って、車へ呼び掛ける警察官の姿を見かけたことはありませんか。

この人は、長門警察署の津田交通課長です。

津田課長は、昨年十月に着任以来、ほとんど毎朝街頭でシートベルトの着用を呼び掛けております。

「前任地に比べて、あまりにもシートベルトを着用している車が少なかったので、毎日呼び掛けを続けられ、少しは関心をもってもらえるのではと思った」と、その動機を話しておられた。車を運転している人に聞いてみると、「はじめはマイクでいわれるので、仕方なしにベルトを締めたが、今では習慣になった。」「ベルトをしないと体が『シャン』としないので必ず締める。』という人が増加した反面、『あの警察官の努力には感心するが、まだ(シートベルトの着用が)法律で決められた訳でもない

し……』 「罰金をとられることもないので……』 「わたしはスピードを出さないから」 「ベルトは胸を締付けるから」 などという人が何人かいた。

津田課長は、「最近ではシートベルトを着けた車が増えました。」とハッキリ言われた。

昨年八月、長門市交通安全推進協議会が実施した「シートベルト着用街頭モニター」の時の調査では、着用率はわずか十三パーセントの状況でした。今年二月に、県警察本部が実施した調査では、一般

## 私はシートベルトで助かった

### 助かった



「私はあの時シートベルトを着けていなかったら死んでいただしよう。」と話すAさん。Aさん(46歳会社員)は、その日(昨年三月)仕事で下関市へ行くため、午前七時十五分頃、軽四輪自動車で国道三二六を走行していた。渋木トンネルの手前まで来た時、対向車線を走行中の普通トラックが、突然センターラインを越えて目の前に現れた。ブレーキを踏む間もなく、そのまま正面衝突。運転席はつぶれ、両足は、はさまれて車から出られない。救急隊が後部ドアから座席を外し救出

した。両足骨折で六か月入院生活後、勤務できるようになった。「シートベルトを着けていたから、頭や体をフロントガラスに打ち付けなかったのが助かった。」「病院で体を見たら、シートベルトの跡がクッキリと残っていた。」と話された。シートベルトがAさんの体を、しっかりと座席に固定したことの、証明と

思います。



「あれからは、必ずシートベルトを着けています。」と話すBさん。

Bさん(20歳会社員)は、